

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価 (3月29日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりに応じた指導と生徒の主体性を育む学習指導を推進する。 ②福祉マインドを培う教育活動を推進する。	①ICT機器等の活用レベルを向上させ、一人一台端末を活用した学びの充実を図るとともに、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実践をとおして、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。 ②横浜市立日野中央高等特別支援学校との相互連携と生徒相互の交流により「福祉マインド」を培う。	①ICT機器や指導法に関する校内研修会を通して、ICT機器の活用について教員の理解を深め、積極的な活用を促すとともに、情報共有を図り、課題配信や提出、教科ごとに有効な活用方法の実践に結び付ける。 ②「総合的な探究の時間」において、探究活動等を通して横浜市立日野中央高等特別支援学校との相互連携を図るとともに、地域施設との交流の機会を設けることにより、2・3学年において福祉マインドを培う。	①ICT機器・学習支援ソフトを活用し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」をとおして、生徒が主体的に学習できるような授業改善への取組が確認できたか。 ②1学年の「総合的な学習の時間（福祉探究）」を充実させることができたか。また、2・3学年において学校行事を含め地域施設との交流の機会を増やすことができたか。	①校内研修・協議等によりICTの活用法について理解を深め、職員間で共有することができた。また、各科目や探究の時間において生徒が積極的にICTを活用して自分の意見等を発することができた。 ②日野中央高等特別支援学校との連携を強化し、福祉探究の充実を図り、生徒の特別支援学校に対する認識を深めた。 ③図書委員会同士のボランティア部と本校社会福祉部との交流、部活動安全対策講習会への共同参加など、交流機会は増加した。	①「協働的な活動」への活用は多く実践されているので、「個別最適な学び」に関する活用法について情報共有を行う。 ①ICT活用に係る校内研修を定期的実施する。 ②交流や共同での取組のまとめを行い、年間行事として振り返る。 ③コロナ禍の状況下でも実施可能な地域との交流について検討する。	「個別最適な学び」をどのようにして「協働的な学び」の実践につなげていくのか引き続き取り組んでほしい。 社会ではあまり使われていないGoogleのアプリを活用するメリットはあるか検討する必要がある。	①ICTの活用法についての職員の理解が深まったが、1人1台端末を活用した学びの充実をさらに追求する必要がある。 ②総合的な探究の時間等で、日野中央高等特別支援と交流を行い、福祉マインドの育成に役立てることができた。	①各教科での研究・実践を継続し、情報共有の機会を設ける。 ②日野中央高等特別支援との連携を今後も継続する。
2	生徒指導 ・支援	豊かな人間性と社会性を育み、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。	①日頃から生活態度（特にスマートフォン関連）への注意喚起を通し、規範意識の醸成を図る。 ②支援を必要とする生徒のための教育相談体制をさらに充実させる。 ③生徒が主体的に企画・運営を行う行事を確立する。	①他グループや学年と情報を共有し問題行動等の未然防止に取り組む。 ①服装・身だしなみ・頭髪・遅刻及びICT機器の扱いなど社会人としてのマナーの向上に取り組む。 ②校内外の教育相談機関と連携し組織的な支援体制を充実させる。 ③行事の実施等にあたり、ICT機器を活用し、生徒が主体的に情報発信や意見集約などを行うことにより、生徒会、学級、学年及び部活動の連携を図る。	①生徒指導に際して複数体制で適切に行われていたか。 ①ICT機器の利用に関するマナー教室を実施し、トラブルを未然に防止できたか。 ①学年集会等を通して規範意識を向上させることができたか。 ②全職員で教育相談体制を理解、確立することができたか。各生徒に適切な支援を行うことができたか。 ③生徒会本部や各委員会等から生徒へ向けた発信を定期的に行うことができたか。	①ある程度は達成できたと思う。 ②ある程度は達成できたと思う。 ③コロナの影響で完全とは言えないものの生徒の自主的な発信が始まりました。	①今後も継続的に取り組んでいくことが大切である。 ②教育相談ニーズは今後も増えることが見込まれるため、全員で対応するような教育相談体制を今後も早急に考えていく必要がある。 ③少しでも明らかになったことに関して極力発信する。	生徒指導提要の改正に伴う、校則の見直しやHPへの公開を進める必要がある。	①「生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援」の基礎は築けた。 ③行事等の細部が決まるまでに時間がかかりなかなか発信が進まない部分があった。	①今後も生徒の観察に努め、問題の早期発見を目指す。 ③決まったことから速やかに発信できるようにする。
3	進路指導 ・支援	①生徒の主体的な活動を通して、進路実現・自己実現を果たす力を育成する。 ②進路指導計画の充実を図る。	①3年間を見通した進路計画の下、生徒が自己実現に向けて、学び実践する場を提供し進路を自ら切り拓く姿勢を育成する。 ②希望する進路に対応した進路指導についてICT機器を有効活用し、生徒へ情報提供等を行うことにより生徒の主体的で適切な進路選択に向けた指導を推進する。 ③ICT機器を活用しキャリア・パスポートを有効活用する。	①定期的な外部試験により実力の定着を図り、学習クラウドサービスClassiを効果的に活用し、生徒の進路実現を目指す。 ②Googleクラスルームを作り、効果的に情報提供を行い、LHR等で進路別ガイダンスを行うなど生徒の進路選択に資するキャリア教育を推進する。 ③Classiのポートフォリオ機能を活用し、定期的に記録を残す。	①Classiを効果的に活用し、生徒の実力の向上、進路実現ができたか。 ②計画的にキャリア教育に取り組むことができたか。 ③定期的に記録を残すことができたか。	①4月、9月実施のスタディサポートの事前・事後学習や夏期講習、課題配信に利用や授業内の小テストに代わるwebテストを実施した。 ②看護・医療系希望者用、一般選抜受験予定者用のGoogleクラスルームを作るなど、進路選択別ガイダンスの準備をした。 ③学期ごと定期的に記録を残すことで生徒の進路実現への意欲を高めた。	①積極的に活用できている生徒の数が少ないので、声かけを増やすなど工夫する。 ②看護体験や模試の案内など届いた情報を定期的に提示する。 ③使用できるLHRの時間が限られている中、定期的に記録できるよう日程調整の工夫をする。	中学校と県立高校との間でスムーズにキャリア・パスポートを繋げることが望ましい。	①実力の向上、進路実現が3年生の一般選抜の合格実績として結果に表れた。 ②定期的にキャリア・パスポートに記録を残せた。	①希望進路にチャレンジする意欲を作る為に在校生に今年度の進路実績を示す。
4	地域等との 協働	地域との連携・協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。	①地域貢献活動を実施する。	①各学年及び部活動等有志を中心に地域清掃を行う。	①多くの生徒が地域清掃に参加できたか。	①学年及び学校有志に実施し、生徒の地域の一員であるという認識を高めた。	①今後も継続して学校行事として取り組む。	地域防災等の活動ですこく助かっている。	新型コロナウイルスの影響で地域防災訓練への参加のみとなった。	地域と協議しながら、地域清掃の方法を見直し再開へと向けていく。
5	学校管理 学校運営	①生徒が安心して通える、安全で信頼される学校づくりを進める。 ②教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。	①校内外の安心・安全な環境整備と清潔な学習環境を維持する。 ①災害発生時に対応できる体制の強化を図る。 ②職場環境の改善を図る等職員の働き方改革を推進する。 ③不祥事防止に努める。	①校内外の環境を把握・確認し、他グループ等と連携し改善を図る。 ①生徒が主体的に取り組むことができるよう美化委員会を活用して校内美化・衛生に努める。 ①災害時の安全に配慮した防災計画を企画する。 ②職員、PTA等から意見を集約し検討する。 ③不祥事防止会議を中心に、不祥事の根絶に向けた企画・立案・研修・点検を行い、意識高揚を図る。	①現状を把握し、適切に対応できたか。 ①美化委員会は主体的に活動できたか。 ①実際の災害を想定した避難訓練が実施できたか。 ②教職員等の提案・意見を集約し課題を洗い出すことができたか。 ③職員に対する不祥事防止研修等に取り組んだか。	①美化委員会が主体となって学校行事における美化活動に取り組んだ結果、生徒全体の美意識が高まった。 ①災害を想定した避難訓練を実施した。 ②教職員等の提案、意見は十分に検討できていない。 ③遇当番による標語の発表や研修会を通じて取り組んだ。	①②③取組として今後も継続して取り組む。	教職員の働き方改革に向けた、より効果的な取り組みが必要である。	①校内外環境の美化を維持することに努めた。 ②災害を想定した避難訓練の実施等安全安心な学校運営に努めた。	①ゴミ箱再設置に伴い、引き続き美化に努める。 ②より一層実際に即した防災避難訓練を実施する。